

2024（令和6）年度 第2回伊賀市図書館協議会議事録

開催日時：2025（令和7）年2月25日（金） 午後3時15分～

開催場所：伊賀市上野図書館

出席委員：柴田会長、石橋副会長、岩佐委員、岡澤委員、喜多田委員、田邊委員、
谷本委員、中森委員、東谷委員、福田委員

事務局：谷口教育長、川部事務局長、小林上野図書館長、中田主幹、村田主任

1. あいさつ

挨拶：谷口教育長、柴田会長

2. 議事

（1）

一事務局より資料1「令和7年度事業計画概要（案）について」を説明―

会 長：はい、ありがとうございます。如何でしょうか。新図書館に向けていろいろやろうか、考えていこう、プレ事業やっていこう。それから従来と合わせて引き続きやりながら、しかしながら、11月から3月までは休館期間であるよということを意識していただければありがたいと思います。ご意見ございましたらどうぞお願いいたします。

委 員：えっとあの、すごい様々な企画を予定されてまして、すごい、同じ図書館で働く身としてはすごい楽しそうなこといろいろやるなと思っておりまして。是非、いろいろ成功させていっていただきたいなと思っております。1点、1点ではないんですけどちょっと気になっていることがですね。今年から新図書館開館プレ事業ということでいろいろやられているわけなんですけれども、通常のイベントと違って、新図書館開館プレ事業という、位置付けに置くっていう中で、どういった、何ていうんですか、どういった、こうプレ事業をする意図ってというのは、新しい図書館ができますよっていう紹介をしていくのか、ちょっとどういった意図があってプレ事業として置かれたのかなというのちょっと気になったということだけちょっと教えていただければと思ったんですけども。

事務局：ありがとうございます。この事業名の中に、新図書館開館プレ事業というふうにタイトルがついているものが、今おっしゃっていただきました、それこそ、新図書館開館に向けた皆さんの機運を高めていくってというような意図がございます。ご存じのように、にぎわい忍者回廊の事業全体で、図書館の運営や建設なども含まれた事業となっていますので、既に事業がもう始まっているという中で、今年度は、もう既に電子図書館の運営が始まりました。来年度はこういったプレ事業も、度々行って、利用者さんや市民の皆さんの興味を持っていただきながら、新

図書館の開館につなげていきたいというものでございます。

委員：ありがとうございました。わかりました。

会長：他にないですか。

委員：失礼します。お願いします。教えてください。いろんな事業考えていただきまして、またあの11月からは、この移転に伴って、本当にいろんな業務があるんだろうなというふうなことを想像させていただきます。質問は2つで、1つは11月から閉館になるってなってるんですけども、このプレ事業は、備考のところには上野図書館って書いてもらってあるんですが、これ、どこでされるんですかっていうことが1点と。それから先ほどもお話もありました、またその他の項の2番のところに、ビブリオバトルの伊賀大会のプレ大会についてということの結果についてのご報告がある中でも、またお話があるのかなと思うんですけども、この予定を見ていると、事業の中でビブリオバトルは入っていないので、もう予定していないのか、それともちょっと今時期を考えてるってということなのかそうなのか、その辺をお聞かせいただけたらと思います。

事務局：ありがとうございます。先ず1つ目のご質問ですけども、閉館後のプレ事業、新図書館開館のプレ事業はどこでということですが、これはこの上野図書館を閉館しまして、引っ越し業務にもすぐにかかっていきますので。新しい旧庁舎の旧上野市庁舎の方の建物の中で、イベントを行う予定でございます。

事務局：担当する部署ってということですよ。

事務局：そうですね。上野図書館が担当しますというものでして。建物自体はですね、旧庁舎は、もう既にその時期には、開業後、図書館はまだなんですけども、ホテルでしたり、他の機能が開業しておりますので建物自体は使えるということですので、そちらの方で工夫しながら、イベントを行っていく予定でございます。2つ目のビブリオバトルの伊賀市大会、この事業の中に今のところ入っておりませんが、7年度中に行う、または8年度、新図書館のオープン以降に行うということを現在検討中でございますので、未確定ですので、ちょっと予定の方には載せさせていただいてないということでございます。

会長：よろしゅうございますか。新しいこう、建物がもうできてるわけですからね。できたものを使いながら、事業を重ねていこうということですね。

事務局：補足でよろしいか。もうこれ、ビブリオバトルについてはですね、学校の協力を得なきゃいけないっていうのがあってですね。やっぱり学校で子供たちが、学校の中でこの子代表にしようとかっていう一人しか出てきませんので、そうしましたら4月に急に学校の代表を決めてもらって、出てくるのが非常に難しいだろうというふうに私たちは、私は思っています。これまた学校とも相談するんですが、やっぱりある程度ですね、学級の中で読み込んで、またその学級の中でこれもいいなってお互い紹介し合って、そしてそこへ出てきていただくということを積もうとすると、年度末の方がやり易いんじゃないかというふうには思っているので、その辺の調整も含めて、学校ともですね、調整させていただいて、できれば

年度末ぐらいにするほうが、学校としてもやり易いんじゃないかなというふうに思っているところでございます。

会 長：ビブリオバトルに関しては、年度末を想定しながら、各学校への働きかけていくということでもよろしゅうございますか。どうぞ。

委 員：先程からの質問とちょっと被る部分もあると思うんですけども。プレ事業の方は、令和7年度6回ということで、この9月の段階からこのプレ事業に関しては、もうずっと新しい新図書館の方でやるということで、なるとこのプレ事業の万博紙面パネル展示っていうのは、誰も入らないところに展示するということなんでしょうか。

事務局：建物自体がもう開業をしておりますので、誰も入らないというよりは、これを、パネル展をご覧いただくために、市民の方に入っただけのような形を取る予定です。

委 員：ちょっと想像が難しいですけど、図書館の内側は、作業なり工事なりしてるってことですね。それで入って、開業って上のホテルもまだですよんかね。

事務局：ホテルは。

委 員：来年の4月ですよんね。

事務局：ホテルはその時点では、開業して。

委 員：ないですよんね。

委 員：4月違いましたっけ。

事務局：旧庁舎の中で、図書館の業務としましては、引越業務を一生懸命やってる時なんですけども。できるそのスペースを設けて、イベントを随時開催していくっていうようなイメージです。

委 員：あともう1点ですね、このプレ事業に関しての経費、事業費等はどこから出てるんですか。ごめんなさい、その忍者回廊事業から出てるのか、別で図書館が出してるのか。

事務局：PFI事業の忍者回廊事業のうちのイベントですので、忍者回廊の事業費の中に含まれております。

委 員：あともう1点、この11月から3月の末までの5ヶ月間、要はこの上野図書館としての図書館機能が全くなくなるということなんですけども、それを補填する何かこのブッカーを走らすとか、そういうことはあるんですか。

事務局：にんにんブッカー、後でまたご説明させていただくんですが、7年度、今年の4月から1年間は阿山地域のみを巡回します。基本的には。で、あとイベント等がございましたら、そちらへ出かけて行ってご利用いただくというのもあります。上野図書館が休館するので、上野図書館をご利用の方向けににんにんブッカーを走らすということは、現在のところ予定はしておりません。ですけども、各分館図書室の方は空いておりますので、ちょっと遠くはなるんですけども、分館図書館の方ご利用いただく形になるかと思います。

委 員：はい、ありがとうございます。

委員：はい。

会長：はい。どうぞ。

委員：すいません。以前の、YouTubeの活用とかで宣伝っていうか、ていうことを言ってたと思うんですけど、図書館自体とか新しくホテルも含めたところとか、今日毎日新聞で、白鳳高校のベンチかなんかが取り上げられてたと思いますけど、そういうところはどんなこう戦略立ててらっしゃるかっていうのを、教えていただけるとと思います。

事務局：にぎわい忍者回廊全体っていうことではいろんな方法で、宣伝をPRをしていくんですけども、図書館ということで申し上げますと、図書館の方ではSNS、LINEですとか、それからフェイスブックですとか、それからいつも、元々行っているホームページや、行政チャンネル、ケーブルテレビの方で、PRを行っております。それから紙面では、伊賀市の広報の方で行っていますので、それを継続して、PRをしていく予定でございます。

委員：あんまりそういうのを活用してないからかわからないんですけど、もう始まっているんですか。そういう宣伝は。

事務局：新図書館のことにしましてはまだ行っておりません。

委員：これから見れるということ。

事務局：そうですね。はい。

事務局：SPC、事業者の方ではホームページを開設されて、今のその、新しい図書館の工事の進捗の状況であったりとかっていうのを、写真を出しながら発信はいただいているみたいですが、それをどれだけの方が見ていただいているかちょっとまだわからないです。

会長：よろしゅうございますか。宣伝活動が大事だなということですが。他の方如何でしょう。どうぞ。

委員：失礼します。ビブリオバトルのことなんですけれども、先日子供たちの聞かせていただいてとてもすごいなというふうに思ったんですが、ただ長くて、聞く方も大変だったっていうのが、ちょっと思いました。それと、子供は子供で、学校の中からそうやって選んでいくんだと思うんですが、それもいいんですが、前からちょっと言わせていただいているんですが、一般っていったら、子供も大人も含めた一般のビブリオバトルを、図書館としても、していただけたら楽しいんじゃないかなと。多くの人数を集めてやるんじゃないかと、本当に定期的にやって、やりますっていう、何て言うの、そういう方で、聴衆の方っていうんで、そうすると、やっぱり、私なんかも、またいいんですけど、聞いていると読みたくなるっていうふうになってしまう、なんか思ってしまうので、そういうのを身近にもっとあればいいんじゃないかなというふうに思います。多分他のいろんな図書館では皆さん毎月のようにされてるんじゃないかなと思うので、どうでしょうかね。県の方とかは。

委員：県立図書館では。

委員：ないですか。

委員：ちょっとやる場所がない。

委員：一時ちょっと興味を持った時にいろいろ行ったんですけど、奈良は結構いろんな図書館されていますし、京都ももちろんされてるので、何かそういう全国的にもされてるようにすごく思います。そんなに人数、もう本当に10人もいればできるような感じで気楽にされたら如何かなというふうに思いました。

事務局：ありがとうございます。先日、先程教育長の挨拶の中にもありましたけれども、ビブリオバトル伊賀市大会のプレ大会を聞いていただいたご感想なんですけども。思った以上に、とても大成功だったというふうに思っていてまして、大変ありがたかったなというところです。私たちも、研究しながら手探りで行っていたようなところがありまして、今後、皆さんの感想をお伺いしますと、皆さんよかったというふうにおっしゃっていただきましたので、今ご意見いただきましたように気軽に参加できるような、環境づくりも大事かなというふうに思いますので。はい。今後検討していきたいと思います。ありがとうございます。

会長：如何でしょうか。今のお話は9月に予定の読書会と重ねることができますね。大人の読書会っていうのはね、こういった形で進行させていくか。

事務局：大人の読書会は、一般の方には、ちょっと難しいイメージがありますが、はい。そちらにも一般の今の読書会に参加されている方は、実際のところ、読書がすごく好きで、深く図書館の本を読んで語り合うというような形を取ってくださっています。それも並行しながら、皆さんに読書に親しんでいただけるようなことを検討していきたいなというふうに思っております。

会長：はい、ありがとうございます。如何でしょうか。他の行事でも構いませんが。どうぞ。

委員：すみません。ちょっと行事ともしかしたら外れるかもしれないですけども、前々回の協議会の中で、電子図書館入れられて紹介されてましたんで、今後、こう広げていく、今ももちろん広めていかれるかなってところなんですけれども。それなら、せっかくっていうのも変ですけど、図書館がちょっと使えない期間もありますし、まあ図書館が使えない、図書館行き難くても使えるっていうようなことで始められたってところもありまして。何かその、ここに書いてないだけかもしれないんですけども、何かそういう電子図書館を広めるイベントだったり、企画だったりっていうのがあってもいいかなというふうに、1つ思いました。ちょっと具体的にこういうのっていうのがないのが心苦しいんですけども、そういうのがあっていいのかなと、すみません思いました。

会長：電子図書館、動き始めてますからね。是非、今使っていただく方がありがたいですけど。使い方についての経験、講演なんかもね、ちゃんとやらなきゃいかんかなあと思います。

委員：ちょっとビブリオバトルの話が出てましたのでそれに関連してですけども、私も初めて聞かしていただいてですね、すごいなと、自分が読んだ本を他のみんなに

発表して、その人たちがまた読みたくなるという、そういう効果がすごく強い事業だなと思ったのと、私、青年会議所では市長選の公開討論会とかも運営してるんですけど、流石に1分前と30秒前ぐらいは、何か教えてやったほうがよかったんじゃないかなと、子供らがもう全然そういう残分もわからない状態で、それでもきっちりとその3分に収めてくる子がいたりしてですね、ああ頼もしいなと思って見ていたんですけども。いきなりですねプレ大会ということで、私も伊賀市中の小学校から選抜された方が集まってたと思うんですけども、あれ、先ず学校単位でやるのが一番なんか効果がね高いような感じがすると思うんですけども、学校内でやってれば、終わってからでも興味がある人はその子に話も聞きに行けるし、だから形としては学校内でやってそこで先ず学校で戦った人らが、伊賀市の大会に来るとかって、何かそういうシステムを組んだらもうちょっと盛り上がるというか、ビブリオバトル自体が、各学校で先ず児童に知ってもらえる。児童が知るということは当然親も知ってくるということなんで、何かそういう形のやり方っていうのは、一番このビブリオバトルっていうのを浸透させるのに、いいんじゃないかなと思って、何かその勝手なあれですけども、先ず各学校大会があって、それから、この伊賀市大会ですか、そんな感じでやっていってですね、もうちょっと景品もですね、もうちょっといい物を用意すればですね、かなり魅力のある大会になると思いますので、また運営の方もですね、いろいろお勉強していただいてですね、もうちょっとこうスムーズにできるような形でしていただければと思いました。

事務局：ありがとうございました。今年初めてするにあたって、もう以前からビブリオバトルに取り組んでいただいている学校もあるんですけど、初めてされるっていうところもあって、学校もすごく戸惑いをなされたみたいなんですけども。学校教育課の指導教諭の方が、学校の方に研修会もさせていただいて、どういうふうにするんやっていうのもレクチャーもさせていただいた中で、各学校で取り組んでいただいたっていうことを聞かせていただいております、3月に校長先生の面談をさせていただいた時も、ビブリオバトル頑張りましたっていうのは、結構聞かせていただいたんで、各学校で取り組みが進んできているのかなというふうに思わせていただいてまして。よかったなと思っております。

委員：失礼します。今ちょっと学校のビブリオバトルのことが出ておりましたので、少しお話させていただきますと、このビブリオバトル大会が、しますっていうことが、お話があったのが、ちょっと夏休み明けの9月ぐらいだったということで、その学校の中でも最初の計画の中にはなかなか入っていなかったっていうところがあるんです。ただですね、やっぱりビブリオバトル大会を各学校1名ずつ代表を出すっていうことになっておりますので、やりたい子ってそうやって決めてきた学校は多分ないと思うんです。うちの学校ででしたら、元々そのビブリオバトルっていうのをしてなかったんで、先ず集会で、教員が本気のビブリオバトルってのをやって、ビブリオバトルってのはこういうもんだよっていうことをやり、

それで子供たちにやりたいっていう気持ちを沸かせて、それで、図書委員会の子を中心にちょっと取り組んだっていう、そういう経緯があります。ただ先程おっしゃったように、学校によってはもう元々そのビブリオバトルを、ずっとこうやってる学校もあったので、他の学校さんを聞かせていただくと、もうその学校の中で、従来あったビブリオバトルの中で選ばれて、代表で出てきたという子もいましたので、ちょっとまた、学校によってそれぞれ様々な取り組みがあると思うんですけども、それは強制的に必ずやりなさいというよりも、私はビブリオバトル大会をたぶん、ほぼ、すべての代表が出ているので、小学校の代表が出ているので、教員も当然ついてきてました。すごくいいなと思って、予想外にって言ってくださいましたけど、やってみて、なかなか子供らやるなっていうふう思ったので、あそこでよかったなって思った、うちも代表1人いてるんですけども、その子たちが、何か広げてくれれば、楽しかったっていう思い出と共に、何か強制的にやらせるよりも、何かビブリオ大会学校でやりたいわって、そういうふうに学校としては持っていけたらいいなっていうふうに思っています。

委員：これってあの今ここ伊賀大会までですけど、県大会とか、東海大会とか全国大会とかそういうあれはあるんですか。

事務局：中学生、高校生になりましたら、県大会とその上の全国大会っていうのがありまして、年末、11月12月頃に、それぞれ、県、全国大会へ送り出すための県大会っていうのが、三重県と奈良県では行われておりまして、そこで、チャンプ本を取った、優勝した子は全国大会に行くことになっております。中学生大会はもう全国大会終わっていますし、高校生大会は、恐らく3月に全国大会があるように聞いたように記憶しております。ですので、今、小学生、伊賀市は小学生の取り組み、学校さんに頑張っていて、すごくよかったなという感想なんですけども、これから続けていくと中学生大会高校生大会に出れる子が出てくるのかなということで、すごく楽しみな今後になるかなというふうに思っています。

委員：本ということでは感想文というものもあると思うんですけど、感想文とビブリオバトルの関係っていうのは、小学校でどうなのかっていうこと。で小学校、本当に今小学校が中学校に上がっていったっていうふうに広がると全国に広がるしいいなと思ったんですけど、この感想文とビブリオバトルの関係って、普通どうなってるのかって教えていただけると。

委員：すいません。今の子供たちってなかなか文を書くっていうことについてはとっても苦手意識を持ってる子がいます。感想文についても、前の時もちょっと、学校での感想文の取り組みはどうなんですかってこと聞かれたと思うんですけども、感想文は、昨年度よりも小学校、中学校は元々感想文を書くっていう文化があるんですけども、小学校ではなかなかこう、夏休みの課題に任せてしまっているところがあったんですが、今年は本当に、教育委員会の方も会議の中で、やっぱり読書感想文を書くことは大事だということで、研修会を開いていただいたりとか、或いは校長会の中でもいろんな話をする中で、あの、小学校は昨年度よ

りも倍の感想文の数が出ていますし、もう、学年として取り組んでいるということもありますので、すごく増えてきています。ビブリオバトルとの関係については、ビブリオバトルは書くのもそうなんですけど読書が好きな子であったりとか、或いは、ある程度、うちも誰が行くかって考えた時に読書が好きなだけでは、なかなかこう、戦っていけないというところがあるので、ある程度こう、会話力とかコミュニケーション力がある子をちょっと選んでいったという経緯があるので、ちょっと感想文とは直接は繋がらないかな。ただ、感想文で自分の意見がまとめられたりとか、本を読んだ感想がきちんと書けるっていう子は、ビブリオバトルでも、やっぱり活躍したいっていう気持ちを持ってるのは確かかなって思います。

委員：プレゼンテーション力とかが、ビブリオバトルでは必要ですもんね、本読めるってだけじゃなくて。

委員：そうですね。もう本当にやってみて、改めてそれは感じました。ただ自分の原稿、その時に感じたことを話するだけじゃなくて、相手、した子に対して、もうバンバン手が上がって、ぜひ聞いてみたいっていう、あの意欲っていうか、あれはすごいなと思ったので、私ももう学校の課題として、ああいう力をつけていくっていうのが、これからの子には大事なんやなって、ビブリオバトルを通して感じました。

会長：如何でしょう。ビブリオバトルの話がかなりありましたが。

委員：さっき時間がね、3分で知らせないの可哀想っておっしゃいましたけど、本来は5分でね、1分前にチンってなるんです、呼び鈴が。本来の姿は。今回は時間の関係とかそので、省略されたんですよ。

事務局：初めてやったので、逆に時間を知ると緊張してしまって、言い難くなるかなっていうのを逆に思ってしまったので、あえて本人に知らせないようにしてしまったんですけども、これからいろいろと。

委員：例えば、時間も後ろ、みんなで前で見てたらいいんですよ、本人も両方見れたら、そうすればね。

事務局：これからいろいろ工夫していきたいと思います。

委員：ないようでしたら、すいません。遅くなって。時間を間違って申し訳ありませんでした。多分、口頭で、今後の口頭で、とても今現在の必要なこととお話しされたと思うんですが、そのことを聞いていない中で、心苦しいんですけども、6月に、ごめんなさい、図書館協議会は、次は6月にあるということですか。

事務局：予定では6月の後半ぐらいに、いつも開催をさせていただいてまして、このときには前年度の実績報告を中心に会議をさせていただく予定です。

委員：何を聞いたかっていうと、私は、今回の第6期かな、図書館協議会委員の中の任期が4月1日から令和7年6月30日までが任期なんです。いろいろ、この新しい図書館に向けてのいろんな話し合いがされる中で、そこに今、今回しかいられないような気がしますので、お話をしてきたらしていきたいなと思うんですけど

も。口頭では、例えば何ていうんですか。委託業者が変わるっていうかそういうお話されたんですか。

事務局：口頭ではというのは。

委員：3月までは行って、また4月からは TRC が入るとかそういうお話もあったんですか。そこって何にも。

事務局：今日ですか。

委員：はい。

事務局：今日はそのような内容は。

委員：ごめんなさい。はい。はい。今、いろんな行事予定の中で言っていたいてるんですが、先程もありましたように、私もビブリオバトルを見せていただきました。例えば、これから新図書館に向けての、子供たちへの関心、図書館に向けての関心をとても引き出すいい企画であったように思います。で、これからも、やはりそういうふうなイベントで、やっぱりいろんな図書館人口を増やしていくっていうことは、非常に伊賀市にとっても大切のように思います。で、さっき、先程県立の方が言ってみたように、いろんなところでは、いろんな企画をしてみえるので、そういうふうな、いろんなところの、されてることを、できるだけ情報を収集して、これやったら新図書館でもできるんじゃないかなっていうふうなことを、拾い出してもらいながらやってもらえたらなと思います。県の方が見えるので、1月31日か何かビジネスパートナーの何かとかがされたっていうのが、あれは職員か何かわからないんですけども。そういうのをちょっと資料として見たんですが、そういうふうな、新しい試みっていうか、少しでも関心の持てるようなネーミング、例えば、今、何ていう、本の、何ていうんですか、本屋さんに行ったら、いっぱいこう本を読みたいなっていうような、魅力的なそういうふうなネーミング作りとかもしてみえるので、多分一杯考えてみえると思いますし、これから TRC が入ってくるんですか。それは言わない方がいいんですか。

事務局：それは今はここでは。

委員：専門的な、いろんな部分が入ってくると思うので、そういうようなところで、魅力的な図書館づくりを、例えば、図書館ワークショップっていうふうな形でこれからも出てくるわけですけども、ワークショップの中でいろんな人の意見を引き出すのもとても大切なことかわからないんですが、いろんな図書館でやってみえる、そういうふうなイベントを拾い出してもらって、そうしたら、上野図書館でも、こんなんやったらできるかと違うかっていうのを、先ず、いろいろ、こう、こう、自分のなんていうんですか、資料として持ってる中で出してもらって、そこでこういう図書館協議会とかいろんな集まりの中で、より良いものにできたらなと思います。で、本当に、私、私がここにいるのは、輪番制でいるので、任期が過ぎると、もう、声を出すのは、その代表の方に声を出せばいいわけですけども、そんな形で、せっかく今この時期に私はとてもいい時期に、図書館協議会にいさせてもらえたなって、非常に感謝してるんですけども。そんな、情報

を密にしながら、更にいい物にしていけたらいいなと思っています。とても不安なのは、運営計画っていうか、その事業計画もそうですけども、それに携わるスタッフとの関わりというか、私たちボランティアが、今現在、上野図書館で働いてみえる司書さんにとっても助けてもらいながら、いろんな事業をやらせてもらっています。ですので、ボランティアの中でも、今後の不安をとっても持っているんです。で、やはりそういうふうな今までやってきたことが、これからも新しい図書館でできるのか。そういうふうなところも、非常に不安も大きいので、できるだけ建物だけじゃなくって、そういうふうなニーズに応えてもらえるような環境づくりを、是非ともこの、その行事計画プラス、それを支えていただく、そういうふうな、部分もお願いしたいなと思っています。以上です。

会 長：はい。ありがとうございました。

事務局：ありがとうございました。今いろいろご意見を頂戴しまして、今後の図書館に対しての運営に関して、心配なお気持ちもあってくださるということですけども。それらのことも踏まえまして、3月の8日に開催しますワークショップの方で参加者の方からもいろんなアイデアをいただくと共に、運営、市職員も含めましての、運営する事業者の方からの情報提供や、いろんなことの話し合いがされると思いますので、そこで情報交換をしながら今後につなげていく、そういう目的で今回ワークショップを開催いたしますので、そちらの方で、開催、ワークショップで話し合いしていきますし、今後も日は未定ですけども、ワークショップのような形の、利用者さんとか市民の方とが交流するワークショップ的なものを事業者の方でも計画をしておりますので、いつもいろんな市民の意見も聞かせていただきながら、図書館運営を共に進めていくというようなイメージでいていただいたらよろしいかと思います。スタッフとの、読み聞かせボランティアさんとスタッフとの関わりなんですけども、現在大変うちのスタッフがいろいろお世話になって、非常にご協力をいただいてまして大変ありがたく思っています。事業者が、今後新図書館になりまして変わっていきましても、現状よりも下がることのない運営を目指していますので、今以上、もっと上を目指していきたいと思っています。そして市の方にも図書館司書おりますので、そちらの方ともまた連携しながら、事業者さんと読み聞かせボランティアさんと、そして私たち市の職員と連携をしながら、進めていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

会 長：はい、ありがとうございます。如何でしょう。スタッフがどのように関わっていくかという非常に大事なことだと思いますので、この3月8日のワークショップの中で、皆さんのご意見を出していただければいいかなと思います。

委 員：この協議会の人はオブザーブということですか。

事務局：はい。ご参加いただける場合はいつものように傍聴をしていただくような形を考えております。

会 長：なんか気にかかるの。

委員：いえ、ワークショップ自体に参加したい人もいないかと。

会長：はい、わかりました。後程またそれはお願いいたします。

2025年度の事業計画は、今のように計画しながら考えていくということによろしゅうございますか。基本としては当たり前のことですが、市民の皆さんの意見を聞きながらやっていくんだと。ただ、非常に大きな変化がありますので、そのところではご配慮いただきながら進めていきたいと考えます。よろしゅうございますか。では次の議題に移らせていただきます。次の議題は移動図書館についてということで、資料の2ですか。資料2について事務局の方お願いします。

―事務局より資料（2）「移動図書館について」を説明―

会長：はいありがとうございます。移動図書館についていよいよ動き始めるということですが。ご意見ございますか。

委員：はい。これ全国で移動図書館が減ってきてる中でこう逆に始めてもらって、移動図書館自体は凄くいい試みだと思うので、結構、やっていただいてですね。令和8年ですよ。からまた阿山以外のところで走られるってということなので、多分この1年の間にいろいろ問題っていう言い方悪いですけども、いろいろこう考えるべき点はやっぱり実際やってみて出てくるかと思います。なので、そういうのをですね吸収して辞めるとかっていう方向じゃない、なんか良くしていこうっていう方向で情報収集して、今後につなげていただけるとすごいいいなというふうに先ず1個思いました。で、すいません。1点だけちょっと気になったんですけども。自分がこの回る地区について詳しくないのでそう思うだけかもしれないんですけども。平日の午前中に行かれますけれども、対象としては、どういう人が多く来そうな感じなんですかね。例えば児童書や絵本などをたくさん積んでいっても、それを借りに来られるような方がこの時間帯に来れる、いらっしゃる、多分いらっしゃるってことだと思うんでこういうふうにお決めになってると思うんですけどもちょっとそこ、自分がこの辺りを知らないんで、ちょっと。どうなってるのかなっていうのを少し思いましたので、お伺いできればなと思います。

事務局：ありがとうございます。1年目、先ずご意見に対してなんですけども1年目阿山地域で巡回しまして、何か問題点とか改善しなければならないことができてきましたら、令和8年度、4月の、全地区を、3地区になるんですけども、回る時にはそれが改善された形でやっていきたいなというふうに考えております。平日の午前と午後、平日の昼間の時間帯に巡回することについてですけども、想定していますのは、お車に乗られなくて、自転車だったりとか、スクーターとか、もしかしたら歩きとかでお越しいただく方、今までどうしても図書館や図書室の方にお車に乗らないとお越しただけなかった方、でもできるだけ細かく巡回させていただくことで、特に高齢の方になるかと思うんですけども。ご自分でお越し

いただけるような手段で来ていただけるのではないかとということと、それから児童書の方も積んでいきますので、未就学の小さなお子さんをお持ちのご家庭の方でしたら、お散歩がてらに市民センターの方までお出かけいただけるのではないかなというような、そういう想定でございます。阿山地区に関しましては2回、週2回行くんですけども、そのうちの1回は、放課後児童教室っていうのが市民センターで開催されておりまして、それに合わせた時間帯で巡回を予定していますので、学校から帰ってきた子供たちが、市民センターに集まってきて、放課後児童教室に来ていきますので、そこへ合わせて行くような形を考えております。

委員：ありがとうございました。

会長：はい。如何でしょう。これから始まるサービスですが。当然のこととしてやってくる人達を考えながら、その場その場でトライアンドエラースタートっていうのかな。そういう感じやっていただいた方がいいと思いますけどね。

委員：いいですか。

会長：どうぞ。

委員：そのちょっと今、全国的に減少傾向にあるということで聞いたんですけども。その減少傾向になってる原因とかっていうのはわかってるんですか。

委員：あくまで減少傾向っていうのはそのはっきり数字取って減少傾向って言ったわけじゃないんです。あくまでその肌感覚というか過去に比べて、やってるところが減ってるというだけなんで、はっきりこう、こういう理由があるっていうのではないんですけども。やはりその図書館に図書館運営にコストパフォーマンスもどうなのかなって思うんですけども、やっぱり運用に関する人手と利用とのバランスとかみたいなのは、ちょっとそういう話で聞いたことがあるので。ただまあ、元々今回伊賀に関しては、図書館の数の面で減るという中で、でもそれでも、不利にならないということなので、そこはそのコスパというか使う人少ないしっていうのではなくて、使いたい人がいる以上みたいな形でやってみたらいいかなというふうに思います。ちょっと答えになってなくて申し訳ないんですが。

委員：どうなんですか。当初のこれの計画の時に聞かしていただいたのは、分室とかそういうのを閉鎖するんで、その代わりにやるんで、まあそのコストパフォーマンスとかの加減でいうても、そこに置いておくよりは、車で回る方が、良いということでお聞かせいただいていたんですけど、その辺は間違いないということですか。

事務局：おっしゃる通りでございます。コストを下げるというよりは、市民サービスを、向上させるっていう方が重要だと思いますので、はい。その辺はコストも考えながら、コストもまるっきり無視はできませんけれども、住民サービスの向上っていうのを最優先に考えながら、コストと関係を考えながら進めていくというところでございます。分室を閉めることに関しましては、今まで、分室があってそちらのご利用を利用者さんが来てくださってたんですけども、施設を置いて、そこで、利用者さんをお待ちするというのではなくて、今度は形を変えて、こちらか

ら出かけて行って、利用者さんに寄り添っていくようなイメージで思っております。

委 員：ありがとうございます。

会 長：如何でしょうか。先ずは阿山地区の市民センターを回りますと、そこに参られた記録を基にして広げていくことを考えると、いうことでよろしゅうございますか。しっかりとこのブッカーを運営していただきたいと思います。後程先ず見ていただき、現実をね、見ていただきたいと思います。では、以上で今日の予定された議事は終わるのですが、いくつかの報告をしていただきたいと思います。先ずは3月8日のワークショップについてお願いします。

―事務局より資料（3）「図書館ワークショップについて」を報告―

会 長：はい。3月8日まで伸ばすということかな。

委 員：当日。

会 長：当日やね。

事務局：4日です。3月の4日でございます。

会 長：4日に17時ね。時間的には。ということで、ちょっと人数をしっかりと抑えようと。

委 員：これ、年齢は別に区切りないってことなんですか。

事務局：そうです。年齢の区切りはございません。

委 員：今、現在40名足らないのですか。

事務局：そうですね。募集定員を40名とさせていただきましたが、若干余裕がございまして、いろんな意見もちょうだいしたいと思っておりますので、ちょっと延長をさせていただきたいと思っております。

会 長：それこそ大きなアドバイスを上げていただきたいと。その上で具現化を考えるとというのが。如何でしょう。ワークショップ参加いただいてますか、皆さん。お時間があればご参加いただきたいと思います。

委 員：広報にも入れていただいてあったんですよ。でも40人も集まらない。

事務局：今のところ。

委 員：あんまり関心が皆さん。

委 員：関心というか、前も同じようなね、あれをやってるんで、なんかその同じような感じちゃうかみたいなことは僕も言われて。でも最終ですもん。もうほとんどこれも最終の市民の意見をいただいて、最後、そのね根幹に関わるね、もう宿泊施設やめよとかそんな話は別にしてね。

委 員：どういう中身。運営面。

事務局：総合的なことを、どんなことを図書館を使って、どういう交流ができるかとかっていうアイデアをもらう場になります。

会 長：如何ですか。皆さんの周りの方でも、図書館に意見をお持ちの方はいっぱいいる

と思いますので、それらの方に声をかけていただいて、はい。3月8日。40人集まったら、今度それをどう取りまとめていくのかが大事なんですけどね。如何でしょうか。

事務局：失礼いたします。事務局の方から、ワークショップのことにつきまして、先程も報告させていただきましたように、40名の定員がまだ満たない状況でございます。当日になりましても40人の定員一杯にならなかった場合ですね、図書館協議会の各委員さん方が傍聴としてご参加いただく場合ですね、参加者として入っていただくということで、この場で提案をさせていただきたいと思いますが、如何でしょうか。

会 長：如何でしょうか。更に意見を一緒にやろうと。

事務局：皆さんこういう場で意見を言う場も一応あってくれるので、基本は普段意見を言えない人を優先させていただいて、まだ枠があるとすれば皆さん方にも入って意見をいただきたいという形にさせていただけたらなと思っております。

会 長：積極的に関わりを持っていただけたらという。

委 員：もう既に申し込んであるものは今大丈夫だと捉えたらいいですか。もう既に申し込んであるものは可能と考えても。

事務局：もう既に申し込んでいただいた。

委 員：はい。にぎわいパートナーズの方に。

会 長：別にオブザーバー、聞き役だけだと言うわけじゃなくて、どんどん発言してくださいということでもいいかと思いますが。ありますか。では、当日お会いできることを楽しみに。

委 員：これは今の図書館の進捗じゃないですけど、もうでき上がりのパースとか、そういうのも、この時は出していただけるってことなんですか、にぎわいさんから。

事務局：ある程度のイメージパースをお見せしまして、でき上がり、こうまあ内装っていう、中がこういうふうになるみたいなことをご覧いただいた上で、イメージを持っていただいて、運営を、どんなことができるかとかいうアイデアをいただくような想定でして、はい。

事務局：本当はそのワークショップまで見ていただきたかったんですけども、平日というか、日曜日以外は工事動いてますもので入ってもらえなくて、次の日、3月9日内覧会っていう形にはなってはいるんですけども。なのでパースなんかを見ていただいたらイメージを膨らませていただいて。

委 員：前あの設計図だけね、見させてもうて話しせえやったけど、なかなか一般の人が設計図でね、どういうあれだとか、どういう形になるかってのはわからないと思うんで。簡単なパース図があればね、こういう感じでイメージしながら、意見出していけると思うんで。ちょっとその辺はしっかりとにぎわいさんの方にご用意いただきますようお願いしたいと思います。

事務局：そのようにさせていただきます。本日ですねお帰りに、もし3月の8日にご参加いただけるようでしたら、事務局の方まで、ご連絡いただきまして、当日ご参加

いただくということでお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

会 長：はい、ありがとうございます。それでは、3月8日のワークショップ終わらせていただいて、続きまして、ビブリオバトル伊賀市大会プレ大会の結果について、資料4をよろしくお願いします。

—事務局より資料（4）「ビブリオバトル伊賀市大会プレ大会結果について」を報告—

会 長：はい。ありがとうございます。ご質問ございますか。

事務局：はい。この資料を見ていただいたらですね。この子供、本の名前の方を見ていただいたらと思うんですが、物語とか、それだけじゃなくてですね、例えば、Bグループの久米小学校の5年生の子でしたら妖怪最強王図鑑と、それから友生小学校でも、そのドラえものの最新ひみつ道具図鑑と、そういう図鑑とか興味がある子が結構いましてですね、またその子らも自分の好きなことだったら非常に上手にですね、それを紹介していただいて、物語だけではなくて、非常にその発表力っていうんですか、紹介するのも、自分の言葉で出てましたし、子供たちにとっては本っていうのは物語とか言うだけじゃなくてですね、そう図鑑類やとか、それから物語とか説明文とかですね、いろんなジャンルでやっぱりしていただいているので、このことについては本も広がるかなと思うし、その図鑑関係でしたら非常に質問もですね、多くなってるんですね。やっぱり子供たちの興味があるところがドラえもののその最新道具でしたら、やっぱりいろんな子が見てるので、質問が簡単に飛ぶってありましたので、そういう面から考えると、いろんな幅が広がったり、子供たちも面白いなというか、見えたかなというふうに思っています。他の方でもし参加いただけた方で感想あったら出していただけたらというふうに、お願いいたします。

会 長：ありがとうございます。如何でしょう。参加していただいた委員さんどうですか。

委 員：大変よかったと思いますし、どうせね、やるんやったら、もう図書館の入口にはチャンプ本がこう並んでるのかなと思ったんですけど。それぐらい何かこうね、もしかしたら、それ見たら子どもはチャンプ本っとはなんだと。じゃあこれ、こういうのがあるのかっていうのが、また1つそういう形になると思うんで。せっかくやる以上ね、図書館でもそういうふうに絡めていけば、なお面白くなっていくんじゃないかなと思いますんで、よろしくお願いします。

事務局：ありがとうございます。今いただきました意見につきましては、私共の方も、そういったことをしていきたいと考えております。発表いただきました本の中で、所蔵してる本と、所蔵していない本がございますので、そういったところもちょっと購入し、こういった大会を開きました、こういった子供たちが発表した本ですっていうところを、また広めていきたいな。そこからですね、読書の幅を広げていきたいな、繋がりを持っていきたいなと思っているところでございます。あ

りがとうございます。

会 長：本の紹介という形を先ず広めていかなあかと。はい。他に何かございますか。
特にないようでしたら、今日の議題の最後、伊賀市子どもの読書活動に関するアンケート調査結果について、資料5ですか。説明をお願いします。

―事務局より資料（5）「伊賀市子どもの読書活動に関するアンケート調査結果について」を報告―

会 長：はい、ありがとうございます。こういったアンケート結果が出ると。もうこれは参考にして私たちの活動を考えていきたいと思うんですが、当面ですね、問の18。伊賀市にどんな図書館があったらいいと思いますか、この辺りをちょっと聞きながらお考えいただきたいと思います、どうぞ。

委 員：すいません。問の18ではなく問の8でお願いします。本を読まなかったのは何故かっていうところで、やっぱり高校生の、私は国語教えてるんで見てるんですけど、本読む暇ってもうほとんどないと思います。もうクラブとか勉強とか、それからスマホを見てっていうことで、もう高校生になったら、本を読む時間本当ないなと思っている割りに、小学生とかは時間がないからとは言わないんだとかいうふうなことがあって、スマホ持っていないから読めるんやなあっていうふうにちょっと思いました。なので、本当に小学生とかでしっかりと読むっていう経験をして、っていうことが、また読みたくなったら帰ってくるみたいなのがすごく大事なかなっていうことを思いました。それからもう1つはその問の14なんですけれども、学校の図書館に行かなかった理由ってあるんですけど、読みたい本がないっていうのが中学生多いっていうことでしたけど。それは多岐に渡ってくると思うんです。1つの学校の図書館ではその多岐に渡る、なんていうかな、本揃えていうのができないっていうことでいうと、上野図書館がそれをしていいんじゃないかっていうふうに読めるんじゃないかというふうに思います。で、最後、保護者の問の5なんですけど、私自身、もう私は親、母親に本読んでもらったり、本、全集とか揃えてもらったりっていうことで本が好きになった人間なんですけど、もうそんな時代じゃないと思うんです。の割に4歳児の保護者が結構読んでもらってるっていうのが、少子化で子供大切にしているのかなっていうか、もう結構読み聞かせしとんやあという感じっていうのがすごくしたっていうことがあるんで、これは、これからどうなるかっていうのは見ていく必要があるかなと思います。でまあ、それが本当に本好きになる1つやと思いますし、あと家に本が揃ってるっていうこともどっかであったと思うんですけど。そういう部分が変わってくるんちゃうかなって、全集置いてもらって、それ読んでなんぼなんていうふうにはこれからなっていくかへんし、スマホとか読んじゃうやろうしっていうようなところなんかも、違う何ていうかな、形っていうの、示せていけたらっていう考え方でいけるかなというふうに思いました。

会 長：はい、ありがとうございます。如何でしょう、他の方。はいどうぞ。

委 員：先程おっしゃっていただいた意見の中で保護者さんが読み聞かせを意外としてるって、あと、特に4歳児5歳児って、私あの学校は保小連携ということで、ちょっと保育所の先生方とお話を聞かせてもらったりとか、ちょっと園児を見せてもらいに行ったりするんですけど、保育所って本当に読み聞かせをきちんと保護者にしてもらうように、毎週1回ずつなんか本貸し出してるっていうことがあって、それをなんか絵本バックみたいなのに持って帰らせて家で読んでくださいねっていう。なんかそういうちょっとこうシステムを作ってるのは、このアンケートに反映されてるのかなあというふうに、先程聞かせてもらって思いました。私がちょっとあの、驚いたのはこの問10ですね。あなたは本を読むことが大切だと思いますか。このパーセンテージは、結構子供たちは高いんだなあということ。あんまりこういうアンケート、どうでしょう、どれくらい本読みますかとか好きですかとか、同じ本を読むんですかっていうことは聞くんですけど、本読むことは大切だと思いますか、学情で出てくるようなアンケートなんですけど、そういうのは思ってるんやなということは思わせてもらいました。それから、問12にある、学校の図書館に行ったことがありますかっていうことで、小学校でいうと、1、2だいたい3年生ぐらいまでは、国語の時間がとっても長い、時間数が多いんです。なので、例えば、1週間に1回、1、2年生は必ず図書館に行くっていうそういう時間を作っていて、でもやっぱり高学年になってくると教科が多くなってくるので、ちょっと図書館に行く時間を作ることができない代わりに、学級文庫を充実させて、ちょっと空いた隙間時間を読書に充てるようにしています。で、保護者さんにアンケートを取ると、私も学校アンケートを取ってるんですが、家で本を読む、本を読む子供、お子さんが家で本を読んでいますかというアンケートを取ると、年々低くなってきて、もう自分も何かこうメンタル的にもうしんどくなってくるので、もうそこに対応するんじゃなくて、やっぱり学校で子供たちがきちんとか本を読みたいとか、好きだと思える子供をちゃんと育てていこうっていうふうになんか方向性を変えたりしてて、もちろん家庭にも啓発はします。啓発はしますが、機会、どちらかというと、子供たちが本買ってよとか、図書館連れてよって、そういう子供をやっぱり育てていく方が早いんじゃないかなっていうふうなことを最近感じさせてもらっています。そのためにどうしたらいいのかなって考えた時に、1つは時間を、朝の読書っていうところで朝の読書の時間を作る。時間を作ることと、あと、先程何方か言ってくださってましたが、子供が来なくなるような図書館の環境を作るっていうことと、もう1つは、誰かイベントって言うてくれてましたけれども、何かそういうこう仕掛けて、ビブリオバトルもそうですし、何かお薦め読書をしたりとか読書貯金をしたりとか、そういうこう読みたくなるような仕掛けを作っていくことが大事なのかなっていうことを思わせてもらいました。何か学校では取れないようなアンケートの結果がこう見れて、すごく参考にさせていただきます。ありがとうございます

ざいます。

会 長：他の方如何でしょうか。はいどうぞ。

委 員：先程のご意見と同じなんですけど保育園です。先程言っていたように、コロナ過でちょっと、読み、貸出絵本は控えた部分があったんですけど。去年コロナ過明けてから、多分各園、毎週絵本の貸し出し等をして、しているところからやっぱり、お母さん方が20代30代が多いので、こういう結果が出てきてるのかなと思うんですけど、やっぱり、小学校行ってもつなげられるようにして、読み聞かせの大切さを伝えていきたいなと、改めて思わせていただきました。ありがとうございます。

委 員：学校の図書館についてなんですが、学校の図書館に司書さんっていうのはいないんですね。

事務局：今、今はいません。

委 員：いないんですね。なんか、大分前にテレビでやってて、やっぱり学校に司書さんがいる学校はもう全然違う、読書量が違うっていうこと、なんか見たことがあるんですけども、そういう方向って、難しいんでしょうか。

事務局：高等学校はいますけど、小中学校は伊賀市はいません。おっしゃる通りで、司書教諭ってのはいるんですけど、それじゃなくて学校の図書館に、図書館を司書がいてくれて、図書館の司書の、図書館運営していただいたり、課題をしていただいたり、子供たちに読み聞かせをしていただいたりってのは必要だというふうに私たちも思っています。今、じゃ全くないかっていうと、県の指定を3校受けて、府中小学校とは阿山小学校とそれから上野東小学校のこの3校には司書に代わるような人、来ていただいてしていただいて、やっぱり図書に興味を持つ子が増えたというのが事実でございます。また、いない場合はですね、もうこれ読み聞かせ、こっちと含めてですね、読み聞かせの方に来ていただいて、実際ですね、何曜日のこの時間は読み聞かせ学校ということで、小学校の低学年中心に進めているということですので、来年から、この4月からですけど、予算要望して司書教諭を雇用してですね、全校に配置するとはいけないので、いかないので、今のところを巡回でですね、それぞれ回っていただくというような体制をとって、図書館の司書を何曜日になったら必ずいるとかですね、そういうふうにしていきたいというふうにして、その効果を見ながら、増やしていきたいというふうに思っています。

委 員：ありがとうございます。それで、そういうふうにね雇用していただければ嬉しいですが、例えば費用の面もあると思うんですが、ボランティアで地域のボランティアの人で、例えば本の好きな年配の方とかいらっしゃると思うんですね。そういう放課後だけ何時間だけとかないのかなってそういう方向っていうのは難しいんでしょうか。

事務局：それは可能です。私も東校区にいた時に地域の方に来ていただいて、図書館の本を貸したり、それから買う本についてもですね、どういう本に興味あるかという

ことも、聞いて買うかっていうこともしてますので、それは可能でございます。

委 員：その場合は、直接学校に。

事務局：うん。

委 員：そういうことはどうですかという話を持っていけばいいんですかね。

事務局：はい。学校も実はですね、もう既にしているところがございまして、先程上野東もそうでした、府中小学校も同じですね。島ヶ原も来てくれてるかな。来てくれて図書館の運営もある程度していただいているところもございます。はい。学校へ言っていただいたら、必ずそこをしていただくようになっております。はい。

委 員：ありがとうございます。

事務局：ところがですね、この府中の例を1つ申し上げますと、実は府中小学校では2年間、市の指定を受けて県の予算を使いながら、司書教諭の代わりの人、それから図書館の中もですね、全部本も綺麗にさせていただいて、古い本を捨てて新しい本も入れてとかいうのは、読み聞かせの方にですね、実はずっと関わっていただいています。それから、そういうふうにして2年間してきました。それから、校長先生もいろんなところへ、市の予算も使いながらまたいろんな予算を使って、子供たちに1人1冊ですね、本を買ってその本をお互いに紹介しあうという、ビブリオバトルじゃないんですけど、紹介し合うという活動もしていただいて、更にはですね、その、地域の書店の方に来ていただいたり、県の職員の方に来ていただいたりして、そういうことも保護者含めて講演会をしていただいたということで、非常にいろんな取り組みをしていただきました。学校ではですね、子供たちが本を好きになった、本を読む数が増えた、それから図書館で借りる、図書カードもたくさん読んでますので増えていますし、子供たちの読書感想文も、昨年度は県の小学校低学年の部で三重県で優勝するというような状況でした。それで、この2年間取り組んできて、じゃあ家庭の本を読む時間も増えるかっていうと、それがですね、この2年間一切増えてない。なかなか学校の取り組みが家庭に波及していかない。2年取り組んでいただいてもですけど、先程、委員がおっしゃっていただいたように、私たちも、なかなかですね、家庭に呼びかけてもこれまで何回か呼びかけても難しかった。私たちの市としてもですね、もう、家庭に呼びかけるけれども、学校で何かして行って、家庭に広げていく。それしか方法はない。でまあ、取り組んでいただいたのが今府中の例なんですけど、なかなか非常にそこ難しいと。だから、如何にですね、家庭で本を読む時間を取ってもらうか。これは読書だけと違って、スマホ見る時間ゲームする時間をやっぱりある程度制限しながら、小学校の時からいくつか読んでもらう必要があると。それから、保育所の方も言うていただきましたが、保護者に読んでいただいて、保護者と共に一緒にですね、そういうスクリーンタイムをなくし、少なくとも、本読む時間に充てていく。これ、家での勉強する時間も入れて、全国各地を見たら、家で勉強する、勉強する時間が全国より非常に少ないという状況もあってですね、やはり啓発をしながら、やっぱり学校として子供たちに指導し

ながら、家庭に、時間を読書時間や勉強する時間を増やしていくというような今取り組みを、これも2年ぐらいここ2年ぐらいやってるんですけど、そういう形で増やしていく必要があるというふうに思っていますし、新しい図書館ができることによって、その学校の図書館だけじゃなくて、地域の図書館へも行っていただいて、親子でそこで見ていただくとか、親が珈琲飲んでるだけでも結構ですけども、子供たちが行っていただいて、その図書館利用を増やしていくことによって、多少なりとも本に親しむ時間が増えていくというような、流れを作っていきたいなというふうに思っております。

会 長：はい。ありがとうございます。如何でしょう。この調査について何かご意見ございませんか。

委 員：いろいろあると思うんですけども。先日ですね。近所の子を連れてよく図書館に借りに来てるんですけども、この間ちょっと忙しくて返しに、返却時間はちょっと延滞という形になってしまって、その時に、その子の家に電話があったと。その次の子が借りたいから返してくれということで、やっぱりそういう、その年代年代で流行ってるもんっていう本が先ずあるとして、それが固定的にですね、この年代がこう上がったならこれ読むっていう、もう、ある程度の時期固定する、アンパンマンであったりとか、その子借りたいのが水玉のなんじゃらって僕ら見ても全然わかんないですけど、何かそれがもうその子供らにものすごく人気があって、もう直ぐに借りに行ってもないとか、そんな状態であって、いうふうに聞いて僕もびっくりしてたんですけど。やっぱその辺のあれですよ。情報をもっとアンテナ張ってですね、子供らが本当に読みたいと思う本っていうのはそういうものやと思うんで、市の方にもですねもうちょっとその本を買う購買費の方ですね、あれしていただいてですね。やっぱり読みたい本があって、図書館で借りられるんならば、僕たちはやっぱり小学校の時に買うよりええなって言うて来てた部分も多いところもあると思うんで。ここはやっぱり一番、そこが図書館の一番の売りなところじゃないかなと思うんで、ただ大人の人もそうですけどもやっぱり子供って結構その流行りもんがあるんで、やっぱその辺のアンテナ高く張っていただいて、その子供たちが読みたい本っていうのを多く入れていただければ、自然と足が運ぶし、親もね、買うぐらいだったら図書館行って借りといでっていうような話になるんじゃないかなと思うんで。ちょっと伊賀市さんもお金ないやろうけど、ちょっとでもね本買えるようにお願いしてもらうように、お願いします。

会 長：はい、ありがとうございます。あるんですね。

事務局：今おっしゃっていただいた人気のある本というのがなかなか順番が回ってこないという現状がありまして、予約者が多数になった場合は、2冊目を購入するとかですね、そういった取り組みをしておりますのと、お子さん、大人の方もなんですけど、ご意見箱っていうのを設けていまして、ご意見のところにはポケモンの本を買ってくださいとか可愛いご意見たくさんいただいています、それらも考えながら、図書館司書が選書していきますので、なるべくお待ちいただくこ

とのないように取り組んでいきたいと思います。

会 長：はい。新しい図書館ができるとね、皆でそれに期待するんですよね。自分の読みたい本があるだろうと。それに応えられるような選書をしていただきたいと思います。如何でしょうか。今日予定していた議題以上になりますが、何かご意見ございますか。もしなければ、事務局の方お願いします。

事務局：長時間にわたりまして、協議の方ありがとうございました。本日の協議会は終了させていただきます。ありがとうございました。